

2012. 7.

(主な内容)

- 原子力発電の安全性・今後のあり方、再稼働に対する意識..... 1
- 「第 20 回人気スポーツ調査」結果の概要..... 6
- 告知板..... 8

中央調査報

■原子力発電の安全性・今後のあり方、再稼働に対する意識

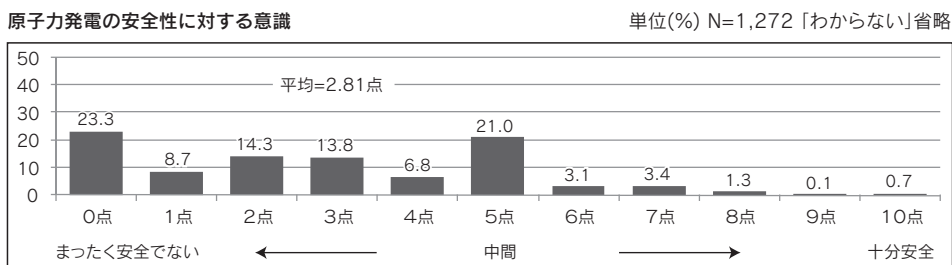
—「東日本大震災と原子力発電に関する全国世論調査」(2012年5月調査)から—

時事通信社と中央調査社は、2012年5月10日から20日にかけて無作為に抽出した全国の満20歳以上の男女4,000人を対象に、東日本大震災・福島第一原発事故から1年あまりを経過した時点の国民意識を探るため、「東日本大震災と原子力発電に関する全国世論調査」を実施した。

東日本大震災と東電福島第一原発事故を受け、原子力発電の安全性、今後の原子力発電のあり方、原子力発電所の再稼働に対する意識などについて、調査員による個別面接聴取法により実施し、1,272人(回収率32%)から回答を得た。なお、本調査は、2011年3月の東日本大震災・福島第一原発事故の2ヵ月後の5月以降、同一仕様で8回実施した。

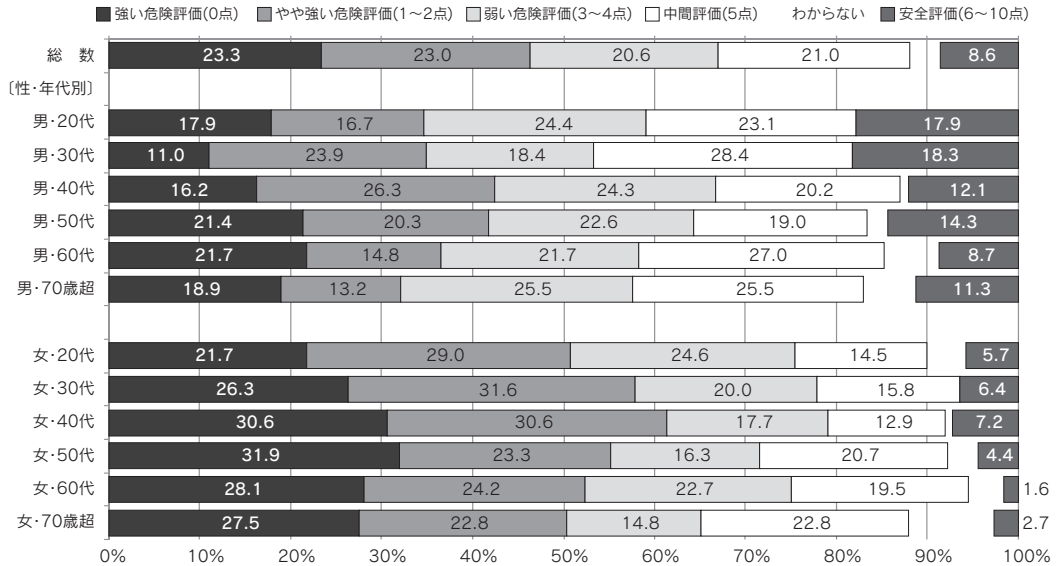
1. 原子力発電の安全性に対する意識

原子力発電の安全性に対する意識について、「まったく安全でない」を0点、「中間」を5点、「十分安全である」を10点とした10点満点方式で答えてもらうと、「まったく安全でない」とする「0点」が23.3%と最も多く、次いで中間の「5点」が21.0%、「2点」が14.3%、「3点」が13.8%と続き、「6点」以上の『安全評価』は8.6%にとどまっているのに対し、「4点」以下の『危険評価』は66.9%に及んでいる。「わからない」や「無回答」を除いた回答者の平均(点)は、『危険評価』の3点あたりの2.81点だった。



0から10までの回答尺度を便宜的に、0点を「強い危険評価」、1～2点を「やや強い危険評価」、3～4点を「弱い危険評価」、6～10点を「安全評価」と分けた構成比(%)で見ると、66.9%と全体の2/3を占める「4点」以下の『危険評価』は、「強い危険評価」23.3%、「やや強い危険評価」23.0%、「弱い危険評価」20.6%と3グループに分かれる。

原子力発電の安全性に対する意識



性別・年代別では、「4点」以下の『危険評価』は男性より女性に多く、0点の「強い危険評価」は女性の50代では31.9%、40代では30.6%に及び、特に女性の40代では1～2点の「やや強い危険評価」30.6%、3～4点の「弱い危険評価」17.7%を合わせると、『危険評価』は80%近くに達する。一方、男性では0点の「強い危険評価」は60代が21.7%、50代が21.4%と高いが、1～2点の「やや強い危険評価」や3～4点の「弱い危険評価」を合わせた『危険評価』は、男性の中では40代が最も高い。なお、6～10点の「安全評価」は、男性の20代(17.9%)や30代(18.3%)、次いで50代(14.3%)が高く、女性では40代(7.2%)が高い。

原子力発電の安全性に対する意識 (各回比較) (%)

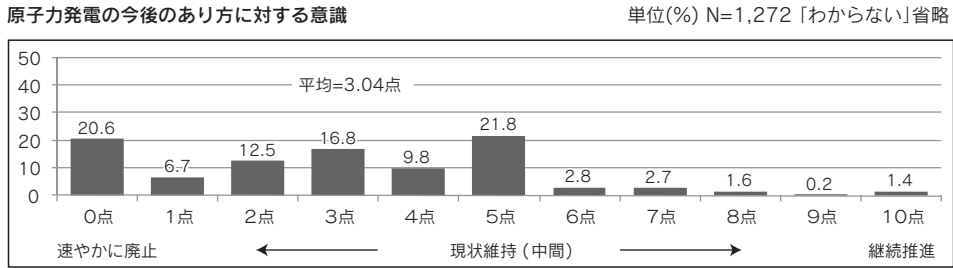
調査回数	調査時期	強い危険評価(0点)	やや強い危険評価(1~2点)	弱い危険評価(3~4点)	中間評価(5点)	わからない	安全評価(6~10点)
第1回	2011年5月調査	20.6	24.0	27.5	17.5	2.4	8.0
第2回	7月調査	20.9	23.2	26.0	19.9	2.3	7.7
第3回	9月調査	22.2	25.5	22.6	19.6	3.3	6.8
第4回	11月調査	23.0	23.8	21.9	20.9	3.4	7.0
第5回	2012年2月調査	22.4	24.3	25.5	18.4	2.6	6.8
第6回	3月調査	27.3	26.3	20.8	16.8	2.3	6.5
第7回	4月調査	25.3	22.3	21.5	20.0	3.0	7.9
第8回	5月調査	23.3	23.0	20.6	21.0	3.4	8.6

第7回2012年4月以前の調査結果をみると、第6回2012年3月調査では0点の「強い危険評価」が27.3%と高くなっているが、第1回の2011年5月調査より「4点」以下の『危険評価』は全体の7割程度を占め、「強い危険評価」と「やや強い危険評価」、「弱い危険評価」の3グループに分かれる傾向は変わらない。

2. 原子力発電の今後のあり方に対する意識

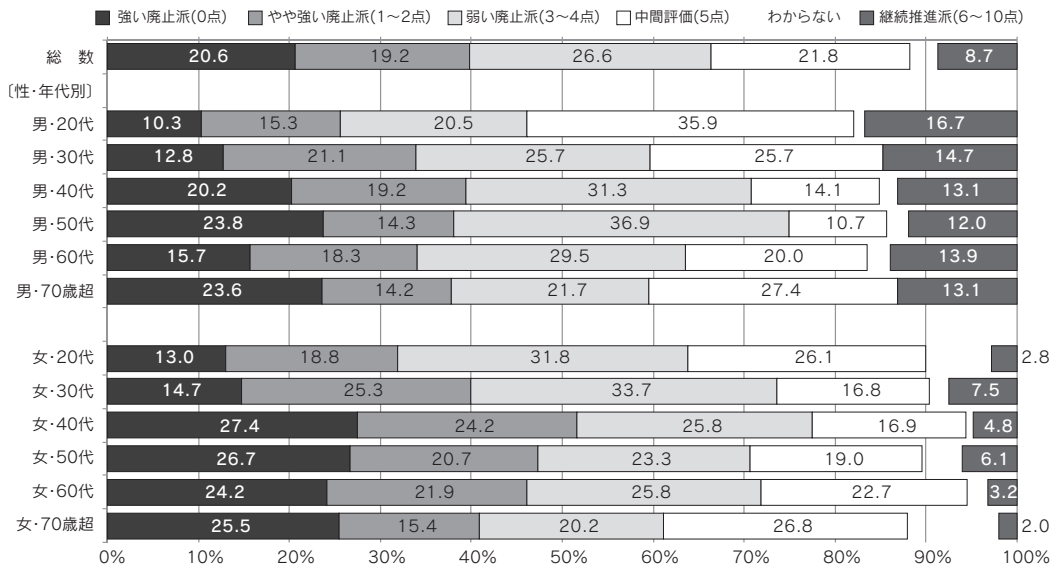
原子力発電の今後のあり方に対する意識について、「速やかに廃止」を0点、「現状維持(中間)」を5点、「継続推進」を10点とした10点満点方式で答えてもらうと、「現状維持(中間)」の「5点」が21.8%と最も多く、次いで「速やかに廃止」とする「0点」が20.6%、「3点」が16.8%、「2点」が12.5%と続き、「6

点]以上の『継続推進派』は8.7%にとどまっているのに対し、「4点」以下の『廃止派』は66.4%に及んでいる。「わからない」や「無回答」は除いた回答者の平均(点)は、『廃止派』の3点あたりの3.04点だった。



0から10までの回答尺度を便宜的に、0点を「強い廃止派」、1～2点を「やや強い廃止派」、3～4点を「弱い廃止派」、6～10点を「継続推進派」と分けた構成比(%)でみると、66.4%と全体の2/3を占める「4点」以下の『廃止派』は、「強い廃止派」20.6%、「やや強い廃止派」19.2%、「弱い廃止派」26.6%に分かれ、3～4点の「弱い廃止派」が多い。

原子力発電の今後のあり方に対する意識



性・年代別では、「4点」以下の『廃止派』は男性より女性に多く、0点の「強い廃止派」は女性の40代では27.4%、50代では26.7%に及び、特に女性の40代では1～2点の「やや強い廃止派」24.2%、3～4点の「弱い廃止派」25.8%を合わせると、『廃止派』は80%近くに達する。一方、男性では0点の「強い廃止派」は50代が23.8%、70歳以上が23.6%と高いが、1～2点の「やや強い廃止派」や3～4点の「弱い廃止派」を合わせた『廃止派』は、男性の中では50代が最も高く、次いで40代が高い。なお、6～10点の「継続推進派」は、男性の20代(16.7%)や30代(14.7%)、次いで60代(13.9%)が高く、女性では30代(7.5%)が高い。

第7回2012年4月以前の調査結果をみると、第3回2011年9月調査以降、0点の「強い廃止派」の増加傾向がみられ、第6回2012年3月調査では0点の「強い廃止派」が20.7%、1～2点の「やや強い廃止派」21.1%と高くなっているが、第1回の2011年5月調査以来「4点」以下の『廃止派』は6割台を占め、中でも「弱い廃止派」が3割程度を占めている。

原子力発電の今後のあり方に対する意識 (各回比較) (%)

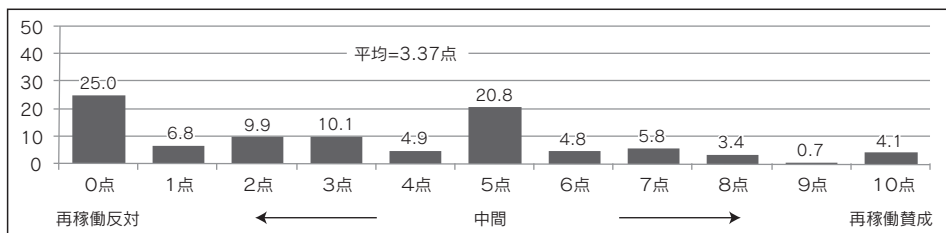
		強い廃止派 (0点)	やや強い廃止派 (1~2点)	弱い廃止派 (3~4点)	中間評価 (5点)	わからない	継続推進派 (6~10点)
第1回	2011年5月調査	13.7	14.9	32.4	26.1	3.8	9.1
第2回	7月調査	13.2	18.5	33.0	25.1	3.2	7.0
第3回	9月調査	14.5	17.2	32.0	23.1	5.0	8.2
第4回	11月調査	15.9	17.1	29.8	26.6	3.8	6.8
第5回	2012年2月調査	17.3	15.8	31.8	21.1	4.9	9.1
第6回	3月調査	20.7	21.1	27.4	20.9	2.8	7.1
第7回	4月調査	18.7	20.1	26.7	23.0	3.9	7.6
第8回	5月調査	20.6	19.2	26.6	21.8	3.1	8.7

3. 原子力発電所の再稼働に対する意識

定期検査で停止中の原子力発電所の再稼働について、「再稼働すべきでない」を0点、「中間」を5点、「再稼働してもよい」を10点とした10点満点方式で答えてもらうと、「再稼働すべきでない」とする「0点」が25.0%と最も多く、次いで、「中間評価(どちらでもない)」の「5点」が20.8%、「3点」が10.1%、「2点」が9.9%と続き、「6点」以上の『再稼働賛成派』は18.8%となっているのに対し、「4点」以下の『再稼働反対派』は56.7%と半数を超えている。「わからない」や「無回答」を除いた回答者の平均(点)は、『再稼働反対派』の4点あたりの3.37点だった。

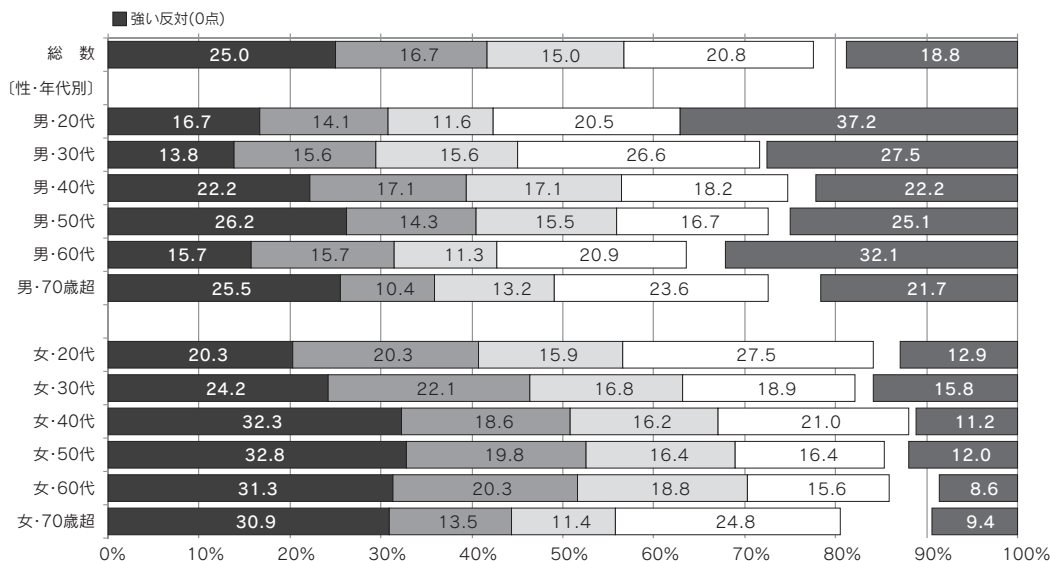
原子力発電所の再稼働に対する意識

単位(%) N=1,272 「わからない」省略



0から10までの回答尺度を便宜的に、0点を「強い反対」、1~2点を「やや強い反対」、3~4点を「弱い反対」、6~10点を「再稼働賛成派」と分けた構成比(%)でみると、56.7%と全体の半数強の「4

原子力発電所の再稼働に対する意識



点]以下の『再稼働反対派』は、「強い反対」25.0%、「やや強い反対」16.7%、「弱い反対」15.0%に分かれ、『再稼働反対派』の中では0点の「強い反対」が多い。

性・年代別では、「4点」以下の『再稼働反対派』は男性より女性に多く、0点の「強い反対」は女性の40代以上では3割を超え、特に女性の60代では1～2点の「やや強い反対」20.3%、3～4点の「弱い反対」18.8%を合わせると、『再稼働反対派』は70%程度に達する。一方、男性では0点の「強い反対」は50代が26.2%、70歳以上が25.5%と高いが、1～2点の「やや強い反対」や3～4点の「弱い反対」を合わせた『再稼働反対派』は、男性の中では40代や50代が高い。なお、6～10点の「再稼働賛成派」は、男性の20代(37.2%)、次いで60代(32.1%)が高く、女性では30代(15.8%)が高い。

2012年3月調査や4月調査と比較すると、4月調査以降、「再稼働賛成派」が増えているが大きな変化は見られない。

原子力発電所の再稼働に対する意識(各回比較)(%)

		強い反対 (0点)	やや強い反対 (1～2点)	弱い反対 (3～4点)	中間評価 (5点)	わからない	賛成 (6～10点)
第6回	2012年3月調査	25.4	17.4	15.7	21.2	4.1	16.2
第7回	4月調査	24.8	16.0	16.1	20.5	4.3	18.3
第8回	5月調査	25.0	16.7	15.0	20.8	3.7	18.8

4. まとめ

原子力発電の安全性に対して、『危険評価』は70%弱に達するが、意識の強度は異なり、「強い危険評価」(23.3%)と「やや強い危険評価」(23.0%)、「弱い危険評価」(20.6%)のグループに3分される。原子力発電の今後のあり方についても、『廃止派』は全体の2/3(66.4%)に及ぶが、「強い廃止派」(20.6%)と「やや強い廃止派」(19.2%)、「弱い廃止派」(26.6%)に分かれる。また、停止中の原子力発電所の再稼働については、『再稼働反対派』は56.7%と全体の半数を超えるが、「強い反対」が25.0%、「やや強い反対」16.7%、「弱い反対」15.0%と分かれる。調査回別でも同様の傾向を示している。

原子力発電の安全性、今後のあり方、原発の再稼働の『危険評価』や『廃止派(脱原発)』、『再稼働反対派』は男性より女性に多く、特に女性の40代などに多い。

(大阪支社 藤田陽一)

1. 調査の設計

- (1) 調査地域：全国の市区町村
- (2) 調査地点：2 1 大 市 — 43地点
 その他の市 — 95地点
 町 村 部 — 19地点
 合 計 — 157地点
- (3) 調査対象：満20歳以上の男女個人
- (4) 標 本 数：4,000人
- (5) 抽出方法：層化副次(三段)無作為抽出法(電子住宅地図を用いたエリアサンプリング)
- (6) 調査方法：調査員による個別面接聴取法
- (7) 実施時期：2012年5月10日～5月20日

- (4) 回収不能内訳： 転 居 153 3.8%
 長期不在 17 0.4%
 一時不在 988 24.7%
 住所不明 20 0.5%
 拒 否 992 24.8%
 そ の 他 558 14.0%

3. 調査時期

- (第1回) 2011年 5月13日～ 5月22日
- (第2回) 2011年 7月 7日～ 7月18日
- (第3回) 2011年 9月 1日～ 9月11日
- (第4回) 2011年11月 3日～11月13日
- (第5回) 2012年 2月 2日～ 2月12日
- (第6回) 2012年 3月 2日～ 3月12日
- (第7回) 2012年 4月 6日～ 4月15日
- (第8回) 2012年 5月10日～ 5月20日

2. 回収結果

- (1) 標 本 数：4,000 100.0%
- (2) 回 収 数：(率) 1,272 31.8%
- (3) 回収不能数：(率) 2,728 68.2%

■「第20回 人気スポーツ調査」結果の概要

中央調査社は、5月10日から20日にかけて、「人気スポーツに関する全国意識調査」を実施しました。調査は、無作為に選んだ全国20歳以上の男女個人を対象に個別面接聴取法で行いました（回答者数1,272人）。調査は、同テーマで1993年以来毎年行っています。

1. 最も好きなスポーツ選手

質問：「プロ・アマ、現役・引退、国内・国外を問わず、あなたが好きなスポーツ選手を1人だけ、何の選手かもあわせてあげてください。」（自由回答）

- ・「イチロー」が8年連続の1位で、連続記録を伸ばし、すべての性別・年代別で1位であった。アメリカの大リーグで活躍中の「ダルビッシュ有」が初のトップ10入りで3位に急上昇。
- ・2位の「石川遼」は、順位こそ維持したものの「イチロー」に迫る勢いが見られた前回と比べると大きくポイントを落とした。
- ・サッカー日本代表の「香川真司」が4位に初登場。男性では「イチロー」に次いで2位に。「なでしこジャパン」の「澤穂希」は、前回初登場の10位から6位に上昇。
- ・ロンドンオリンピックでの活躍が期待される、水泳の「北島康介」が10位にランクアップ。
- ・角界からは、横綱「白鵬」が5位、日本人大関として活躍中の「稀勢の里」が13位に初登場。

▼最も好きなスポーツ選手(上位15位)

		今回(2012年) (n=879)		2011年 (n=899)		2010年 (n=956)		2009年 (n=924)		2008年 (n=921)	
1位	イチロー (野球)	172人	19.6%	①	19.5%	①	24.5%	①	30.6%	①	24.9%
2位	石川遼 (ゴルフ)	59人	6.7%	②	17.1%	③	9.6%	②	5.5%	⑫	1.4%
3位	ダルビッシュ有 (野球)	52人	5.9%	⑭	1.1%	⑳	0.5%	⑰	0.9%	⑱	0.8%
4位	香川真司 (サッカー)	36人	4.1%	-	-%	-	-%	-	-%	-	-%
5位	白鵬 (相撲)	31人	3.5%	④	3.3%	⑩	1.6%	⑬	1.1%	⑰	0.7%
6位	澤穂希 (サッカー)	30人	3.4%	⑩	1.6%	-	-%	-	-%	-	-%
7位	浅田真央 (フィギュアスケート)	24人	2.7%	⑥	2.9%	②	12.1%	⑥	2.8%	⑧	2.3%
8位	長嶋茂雄 (野球)	21人	2.4%	⑤	3.2%	⑤	3.9%	③	4.0%	③	4.2%
〃	王貞治 (野球)	21人	2.4%	⑦	2.4%	⑦	2.0%	⑤	2.9%	⑨	2.1%
10位	北島康介 (水泳)	19人	2.2%	⑰	1.0%	⑯	0.6%	⑪	1.5%	⑦	2.9%
〃	松井秀喜 (野球)	19人	2.2%	⑨	1.8%	④	5.3%	④	3.0%	②	7.7%
12位	長友佑都 (サッカー)	14人	1.6%	③	4.0%	-	-%	-	-%	-	-%
13位	阿部慎之助 (野球)	10人	1.1%	-	-%	-	-%	⑰	0.9%	-	-%
〃	メッシ (サッカー)	10人	1.1%	⑳	0.8%	⑯	0.6%	-	-%	-	-%
〃	金本知憲 (野球)	10人	1.1%	⑰	1.0%	⑥	2.3%	⑦	2.7%	⑥	3.4%
〃	高橋大輔 (フィギュアスケート)	10人	1.1%	-	-%	⑦	2.0%	-	-%	-	-%
〃	稀勢の里 (相撲)	10人	1.1%	-	-%	-	-%	-	-%	-	-%
〃	原辰徳 (野球)	10人	1.1%	⑳	0.8%	⑨	1.8%	⑮	1.0%	-	-%
〃	本田圭佑 (サッカー)	10人	1.1%	⑭	1.1%	-	-%	-	-%	-	-%

(注) -は上位21位以下、○数字は順位。

▼男女別順位(上位10位)

男性 (n=445)			
1位	イチロー	90人	20.2%
2位	香川真司	27人	6.1%
3位	ダルビッシュ有	25人	5.6%
4位	石川遼	19人	4.3%
5位	白鵬	18人	4.0%
6位	王貞治	15人	3.4%
7位	長嶋茂雄	14人	3.1%
8位	松井秀喜	13人	2.9%
9位	北島康介	7人	1.6%
〃	メッシ	7人	1.6%
〃	澤穂希	7人	1.6%
〃	金本知憲	7人	1.6%
〃	阿部慎之助	7人	1.6%
〃	長友佑都	7人	1.6%

女性 (n=434)			
1位	イチロー	82人	18.9%
2位	石川遼	40人	9.2%
3位	ダルビッシュ有	27人	6.2%
4位	澤穂希	23人	5.3%
5位	浅田真央	22人	5.1%
6位	白鵬	13人	3.0%
7位	北島康介	12人	2.8%
8位	香川真司	9人	2.1%
9位	高橋大輔	8人	1.8%
10位	長嶋茂雄	7人	1.6%
〃	長友佑都	7人	1.6%

▼年代別順位(上位5位)

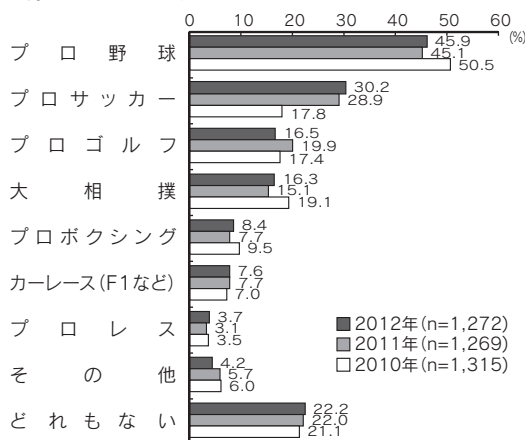
20代 (n=101)				30代 (n=146)				40代 (n=157)			
1位	イチロー	22人	21.8%	1位	イチロー	35人	24.0%	1位	イチロー	37人	23.6%
2位	香川真司	10人	9.9%	2位	ダルビッシュ有	11人	7.5%	2位	石川遼	10人	6.4%
3位	石川遼	5人	5.0%	3位	香川真司	9人	6.2%	3位	浅田真央	6人	3.8%
〃	澤穂希	5人	5.0%	4位	石川遼	6人	4.1%	〃	澤穂希	6人	3.8%
5位	ダルビッシュ有	4人	4.0%	5位	メッシ	5人	3.4%	〃	香川真司	6人	3.8%
〃				〃	浅田真央	5人	3.4%				
50代 (n=146)				60代 (n=173)				70歳以上 (n=156)			
1位	イチロー	25人	17.1%	1位	イチロー	32人	18.5%	1位	イチロー	21人	13.5%
2位	ダルビッシュ有	12人	8.2%	2位	石川遼	19人	11.0%	2位	白鵬	11人	7.1%
3位	石川遼	8人	5.5%	3位	長嶋茂雄	10人	5.8%	〃	ダルビッシュ有	11人	7.1%
4位	王貞治	7人	4.8%	4位	ダルビッシュ有	9人	5.2%	〃	有	11人	7.1%
〃	澤穂希	7人	4.8%	5位	白鵬	7人	4.0%	5位	石川遼	7人	4.5%
								〃	長嶋茂雄	7人	4.5%
								〃	稀勢の里	7人	4.5%
								〃	澤穂希		

2. 好きなプロスポーツ

質問：「あなたが好きなプロスポーツを、この中(回答票=(ア)大相撲、(イ)プロ野球、(ウ)プロサッカー、(エ)プロゴルフ、(オ)プロレス、(カ)プロボクシング、(キ)カーレース〔F1など〕からいくつでもあげてください。」(複数回答)

- ・「プロ野球」が、昨年に続き1位を維持したが、5割回復には至らなかった。昨年と同じく2位の「プロサッカー」は好調で3割台に。3位の「プロゴルフ」は、上昇傾向がストップ。「大相撲」は、昨年に続いて4位。

▼好きなプロスポーツ



3. 好きな現役力士

質問：「あなたが好きな現役の力士を3人まであげてください。」(自由回答、複数回答)

- ・横綱「白鵬」が、5年連続で力士ナンバー1。夏場所で惜しくも優勝を逃した「稀勢の里」が2位に、同じく日本人大関として活躍が期待される「琴奨菊」が3位に上昇。

▼好きな現役力士(上位10位)

	今回 (2012年) (n=1,272)	2011年 (n=1,269)	2010年 (n=1,315)	2009年 (n=1,244)	2008年 (n=1,261)	2007年 (n=1,352)
1位	白鵬	32.7%	① 34.1%	① 31.2%	① 26.7%	④ 10.8%
2位	稀勢の里	12.6%	⑤ 3.9%	⑧ 4.0%	⑨ 3.1%	⑩ 2.0%
3位	琴奨菊	8.6%	⑩ 1.4%	⑮ 0.7%	—	⑮ 0.7%
4位	高見盛	6.6%	③ 9.1%	④ 13.2%	③ 14.1%	③ 12.7%
5位	琴欧州	6.4%	④ 4.9%	⑤ 8.1%	⑥ 9.1%	② 9.5%
6位	把瑠都	5.7%	⑥ 3.6%	② 18.4%	⑬ 1.1%	—
7位	日馬富士	3.6%	⑦ 2.1%	⑥ 5.6%	④ 12.5%	⑨ 2.9%
8位	鶴竜	2.8%	⑮ 0.3%	⑮ 0.7%	—	—
9位	豊真将	2.5%	⑧ 1.5%	⑭ 0.9%	⑮ 0.6%	⑭ 1.0%
10位	安美錦	2.0%	⑫ 0.8%	⑩ 1.4%	⑭ 0.7%	⑬ 1.2%
1人も浮かばない	52.3%	52.6%	44.3%	45.7%	45.7%	54.2%

(注) —は16位以下、○数字は順位。

(調査部 園山紗絵子)

(調査の設計・方法など)

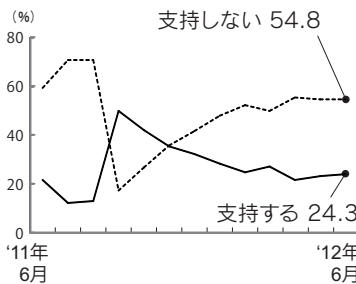
- 調査地域：全国
- 調査対象：20歳以上の男女個人
- 標本数：4,000
- 抽出方法：層化三段無作為抽出法
- 調査方法：調査員による個別面接聴取法
- 調査時期：2012年5月10日(木)～20日(日)
- 有効回収数：1,272

◇ 告 知 板

6月の時事世論調査

6月の時事世論調査の結果がまとまった。野田内閣の支持率は24.3%と前月から1.0ポイント微増のほぼ横ばい、不支持率は0.2ポイント減の54.8%と5ヵ月連続で5割を超えている。野田首相は、社会保障と税の一体改革関連法案の成立を目指し、増税反対などを唱える小沢一郎民主党元代表に会談で協力を求め、再会談で元代表は採決時反対を表明し、会談決裂。首相は、参院で問責決議を受けた前田武志・前国交相、田中直紀・前防衛相を事実上更迭した再改造内閣で自民・公明両党と法案修正協議を本格化した。首相の姿勢を評価する一方、2009年衆院選のマニフェストにない増税先行と与党内からも批判が噴出し、民主党内が分裂状態に陥った。また、首相は6月8日、関西電力大飯原発3、4号機(福井県おおい町)の再稼働について、記者会見で「国民の生活を守るため必要」と表明した。

調査は全国の成人男女2,000人を対象に、個別面接聴取法で6月8日から11日に実施。有効回収(率)は1,289(64.5%)だった。



この時期の動きを見ると、国内では、

東芝TV国内生産撤退：国内での薄型テレビの生産から撤退と東芝発表(5月17日)。

今夏、関電15%節電：政府は今夏の電力需給対策を決定。

関西電力に10年夏ピークより15%、九州電力10%、北海道電力7%超の節電目標を定め、余剰電力を関電、九電に融通するため四国電力などに節電を要請(同18日)。

東京スカイツリー開業：世界一高い634メートルのスカイツリー(東京・墨田区)開業(同22日)。

野田首相/小沢民主党元代表会談：消費税増税関連法案の成立に向けた首相の協力要請に小沢氏拒否(同30日)。再会談で小沢氏消費税増税法案に重ねて反対表明、法案採決時反対を明言(6月3日)。

オウム菊池容疑者逮捕：1995年のオウム真理教による地下鉄サリン事件の殺人・同未遂容疑で警視庁は菊池直子容疑者を相模原市内で逮捕(同3日)。

野田再改造内閣発足：参院で問責決議を受けた前田武志・前国交相、田中直紀・前防衛相を事実上更迭、防衛相に森本敏・拓殖大学教授を民間から初起用(同4日)。

3党協議本格化：民主・自民・公明3党が社会保障と税の一体改革関連法案の修正協議開始(同8日)。

首相、大飯原発再稼働表明：国民生活を守るため大飯原発3、4号機再起動必要と野田首相表明(同8日)。

国外では、ギリシャ総選挙で反緊縮派躍進・連立不調で再選挙に：反緊縮派の急進左派連合が躍進、緊縮支持の連立与党は過半数割れ(5月6日)。連立交渉失敗で6月17日に再選挙決定(同16日)。

シリアで住民殺害続く：昨年3月の反体制デモ開始以来、首都ダマスカスで大規模テロや子どもを含む多数の住民が砲撃や銃撃による殺害が続き、国連・安

保理は非難声明採択(同27日)。

ユーロ急落96円台：ニューヨーク外為市場で約11年半ぶりに一時1ユーロ=96円台の円高ユーロ安に(同31日)。

ムバラク前大統領に終身刑：カイロの特設法廷はエジプトのムバラク前大統領にデモ参加者を殺害などと終身刑の判決(6月2日)。

政党支持率は、民主党は前月比0.9ポイント減の8.1%で、民主党政権下で最低更新。自民党は1.2ポイント増で13.1%と、両党の差は前月の2.9ポイントから5.0ポイントに拡がり、20ヵ月連続で民主党を上回っている。支持政党なしは0.4ポイント減だが69.7%を占めている。

(上段：6月、下段：5月)

	民	自	公	共	社	国	み	そ	支
	主	民	明	産	民	新	な	の	持
	党	党	党	党	党	党	党	党	政
	%	%	%	%	%	%	%	%	党
6月	8.1	13.1	4.2	1.0	0.5	0.1	1.3	0.5	69.7
5月	9.0	11.9	3.4	1.4	0.2	0.2	1.6	0.5	70.1

国民の景気感は、「良くなった」は前月より1.6ポイント減の4.4%、「悪くなった」は2.2ポイント増の34.0%に増加。この結果、時事世論景気指数は、100に後退した。

時事世論景気指数

	2005年	06年	07年	08年	09年	10年	11年
11年	131.1	143.7	117.2	42.0	61.0	96.8	84.1
11年	(6月)	(7月)	(8月)	(9月)	(10月)	(11月)	(12月)
	71	84	78	88	90	83	86
12年	(1月)	(2月)	(3月)	(4月)	(5月)	(6月)	
	97	85	100	95	107	100	

昨年今の頃と比べて暮らし向きは、「楽になった」は前月と同じ3.0%、「苦しくなった」は2.5ポイント減の29.3%となった。